ウマが走るよ

ガラスのうま

征矢 清 さく　偕成社　９１３－ソ

ある日、すぐりは、かざりだなのうえにあるガラスのうまとあそびたくなり、いすにのぼっておろそうとしました。すると、ガラスのうまは右のまえ足をゆかにぶつけてしまい、ひざのところでぽっきりおれてしまいます。おれたところをテープでしっかりとまきましたが、ガラスのうまは、ガラス山のほうにむかってはしっていきました。すぐりは、ガラスのうまをおいかけます。

エドワードとうま

オーレ・エクセル 絵　アン・ランド 文　谷川 俊太郎 訳　岩波書店　Ｅ－エ

エドワードがいちばんほしいのは、うまです。マンションには〈いぬ ねこ おことわり〉のサインがありますが、うまのサインはありません。でも、とうさんとかあさんは、うまがマンションにすむのはへんてこで、かわいそうだといいます。あるあさ、がっこうへいくとちゅう、しょうぼうしのマイクに、まちがだいすきなうまのスミティのはなしをきくと、エドワードはかけだしました。

ルシールはうま

アーノルド・ローベル 作　岸田 衿子 訳　文化出版局　Ｅ－ロ

ルシールは、おひゃくしょうさんのうまです。はたけですきをひっぱって、せっせとはたらいていました。でも、じぶんがぱっとしなくて、きたないことにあきてしまいます。あるひ、ルシールはおひゃくしょうさんとおくさんをまちまでのせ、おくさんとかいものをします。おくさんがルシールにぼうしやくつ、ドレスをかってやると、ルシールは、はたけしごとをしなくなりました。

ウマと話すための７つのひみつ

河田 桟 文と絵　偕成社　Ｅ－カ

　ウマは、大むかしからなかまとむれになってくらすかしこい生きものです。むれでは、ウマどうしだけにつうじる「馬語」を話しています。人は馬語がわかりません。でも、ごくたまに、いつまでもウマたちのようすを見て、馬語の半分くらいが、わかるようになる
ちょっとふうがわりなこどももいます。さあ、馬語のひみつをしって馬と話をしてみましょう。

丘はうたう

マインダート・ディヤング 作　脇 明子 訳　福音館書店　９３３－デ

　レイは、二週間ほど前から、一家５人で田舎に住んでいます。うちのまわりは、見わたすかぎり広いトウモロコシ畑で、小川や畑道にはりんごの木、スカンクの穴がありました。ある日、レイが汽車になって遊んでいると、畑道のさきの丘のてっぺんから一頭の大きくて白い馬がじっとレイを見おろしていました。馬は、いななくとレイのいる木戸をめがけて駆けおりてきます。

馬と少年

Ｃ．Ｓ．ルイス 作　瀬田 貞二 訳　岩波書店　９３３－ル

　シャスタは、小さな入江のほとりに漁師の父と住んでいました。ある日、南からきた貴族を泊めることになり、おとなたちの話をきいてしまいます。それは、自分が小舟で岸に流れついた子で、その貴族に売られるということでした。シャスタは、ナルニア国からさらわれたというものいう馬ブレーといっしょに北へ逃げることにします。

ぶどう畑のアオさん

馬場 のぼる 文・絵　こぐま社　Ｅ－バ

　アオさんは森のなかでくらしています。ある日、アオさんは森のおわったおかのうえに、ぶどうがいっぱいある畑のゆめをみます。ゆめからさめたアオさんは、ゆめのとおりに森のこみちをあるいていきました。森がおわったところにあるはらっぱで、ネコにゆめのはなしをし、アオさんはせなかにネコをのせておかをのぼります。すると、そこにはゆめとおなじぶどう畑がありました。